

わかやま農業教育一貫プロジェクト



【現状・課題】

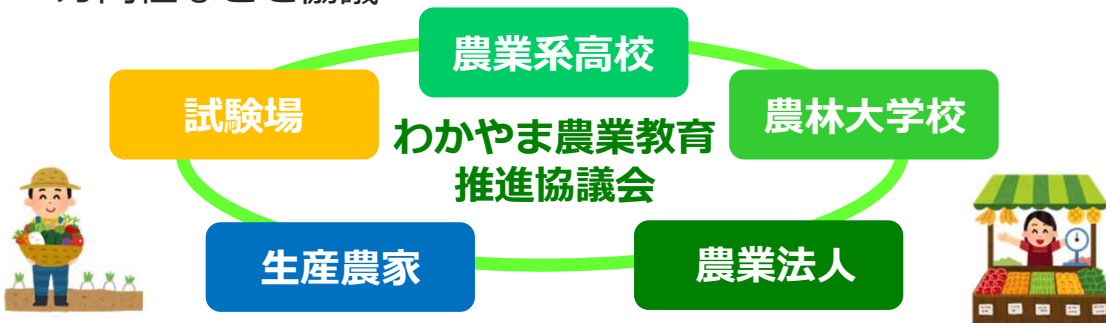
- 本県の農業従事者の高齢化が進行している。
- 農業系高校入学生の大半が農家ではない家庭の出身者であり、農業への興味関心や目的意識が希薄な生徒が多い。
- 農業系高校を卒業後、農業関係への就職や農業を専門とする上級学校への進学者が減少している。

【目的】

- 農業の専門知識を確実に身に付けるとともに、就農への強い意欲を喚起
- 「果樹王国わかやま」の強みを生かし、果樹を軸とした学びで優れた専門性や技術を有した人材を育成

【わかやま農業教育推進協議会】

- 農業系高校・農林大学校・農業法人・試験場・生産農家による「わかやま農業教育推進協議会」を設置
- 農業教育に関わる機関が連携し、教育内容や農業教育の方向性などを協議



【全国募集】

- 紀北農芸高校・南部高校（食と農園科）で、果樹の学びを特色に、全国募集を実施

【5年間の一貫教育】

5年間の継続した農業教育

農業系高校（3年）

農林大学校（2年）

- ・ 果樹（ミカン・梅・もも・かき）の学習を軸にスマート農業や6次産業化についても学習
- ・ 5年間の継続カリキュラムの構築
- ・ 進学後も継続できるプロジェクト学習を設定
- ・ 地元農家や農業関係法人等での実習の充実
- ・ 県農業試験場等と連携した講義や実習の実施

教育内容の特色



果樹



スマート農業



6次産業化

【わかやま農業高校マルシェ】

- JR和歌山駅前で定期的に各学校の農産物や加工品を販売
- 農業の6次産業化についての学びを深めるとともに、農業系高校の取組を広くPR



わかやまの農業を支える人材を育成